

## 再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.1 - 15)

<b>件名</b>	アルカリ廃液供給槽の計装配管における詰まり	
<b>事象の概要</b>	(1) 発生場所・機器 分離建屋：アルカリ廃液供給槽 (2) 発生状況 アルカリ廃液供給槽の運転中 (3) 概要 アルカリ廃液供給槽内の計装配管が析出物により詰まり、槽内の液位等が計測不良 * 他の建屋も含め同種の機器においても、同様な事象の発生が予想される。	
<b>事象による影響</b>	(1) 工場外への影響 <b>工場外への影響は生じない。</b> 分離建屋塔槽類廃ガス処理設備が稼働しているアルカリ廃液供給槽内の事象及びそれに伴う復旧作業なので、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。 (2) 安全性への影響 <b>安全上の問題は生じない。</b> 計装配管の詰まりを液位指示値、密度指示値の異常により検知し、溶液移送を停止するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。 (3) 作業員への影響 <b>作業員への影響は生じない。</b> 計装配管の詰まり除去の復旧作業に当たっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。 (4) 他工程への影響 <b>他工程への影響は生じない。</b> 供給槽への溶液受入れが停止されるが、関連するその他の工程は一時的な貯留槽を有しているため、残液量により運転の継続を判断する。計装配管の詰まりは純水供給、圧縮空気の供給量増加によって短時間で解除されるため、他工程への影響は生じない。	
<b>対応の概要</b>	(1) 計装配管の詰まりであることを確認する。 (2) 定められた保守作業手順に従って、計装配管から計装用圧縮空気を供給する。 (3) それでも除去できない場合は、定められた保守作業手順に従って、計装配管から硝酸等の除染液を流し、詰まりを除去する。	
<b>公表区分</b>	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)	
<b>対応区分</b>	(a) 運転継続しながら復旧 (b) 運転システムを切り替えて復旧 (c) 当該機器を停止して復旧 (d) 当該設備を停止して復旧 (e) 影響範囲の設備を停止	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価： <b>レベル0以下</b> (レベル2以下は工場外への影響はない)

